1963年7月 8日

（討議資料）

共産主義者同盟綱領（草案）

発行
社会主義青年運動労働者委員会

プロレタリア世界革命の勝利のため
万国の労働者団結せよ！

――共産主義者同盟綱領（草案）――

全世界からブルジョア支配を一掃し、真に人間の解放される社会、共産主義社会を建設するためには、プロレタリアートはみずからの前衛を組織しなければならない。

しかし、現存の自称「共産党」はプロレタリア革命をひきのばし、敗北させ、資本主義を生きのびさせてきた。プロレタリア運動の危機、それはまさにプロレタリア前衛の指導部の危機にほかならない。これを打開するためには、裏切りをつづける自称「共産党」のかわりに、真にプロレタリアートの指導部―断乎たる革命の決意につらぬかれた新たな前衛党をつくらねばならない。

わが共産主義者同盟は、このためにすべての日和見主義的組織から理論的、組織的に分離し、公然とその活動を開始した。

われわれは、マルクスのなしとげた資本主義の批判と、レーニンに率いられたボリシェヴィキ党の偉大な戦闘の経験とに学び、みずからを新たな前衛党にきたえあげるために全力をあげて闘うであろう。

共産主義者は自分の見解と目的をかくすのを恥とする。われわれはなによりも次のことを公然と語ることを義務とする。

全世界にわたつて共産主義社会を建設する以外に、自己を解放することができない、と。

1　資本主義と共産主義
ブルジョア権力を打倒し
プロレタリア独裁を樹立せよ！

1

労働者階級は、ただみずからの実力でブルジョア権力を粉砕し

一、人類の最後の階級社会、資本主義社会では、労働者階級はすべてを搾取されている。

資本主義は、それ以前の社会にみられた身分的な不平等や、経済外的強制にかわつて、形式的には身分的平等と個人の自由意志にもとずく社会関係をもたらした。資本主義はまた商品の交換を通じて、局地的であり、分裂していた旧社会のかべを打破り、全世界を一つに結びつけた。

このことによつて資本主義は、かつてない巨大な生産力を動員することに成功した。しかし、この社会では、いつさいの生産手段は資本家階級によつて占有され、社会の基本的な生活手段を生産する労働者階級は、生産手段からまつたくきりはなされている

労働者は無産階級として失うべきなにものもたない。

2　労働者は、生きていくためには、賃金とひきかえに自分の労働力を売つて資本家のもとで働く以外にはない。

機械制大工業が生みだす厖大な失業者の存在は、労働者階級の賃金をぎりぎりの水準にまでひきさげる。労働者階級はつねに失業の脅威にさらされている。

労働者階級の日々の労働は、ただ資本家階級を富み肥やすだけである。なお、さらに、資本家階級はこうしてえた富を、新たな資本として蓄積し、労働者を支配し、搾取する手段にする。労働者は働くことによつて、ますますみずからを資本家の鉄のくびきにしばりつけているのだ。社会の一方には莫大な富と享楽が集中するのに、他方では、働けば働くほど労働者の地位はみじめなものになる。

資本主義は、人間が自然を変革する生産活動を、商品による商品の生産として耐えがたい賃労働にかえ、労働者を非人間的な機械の附属物にしてしまうのである。

芸術や科学をはじめとした人類の精神活動のいつさいの成果は支配階級である資本家階級に独占されている。このような資本家階級がすべての生産活動を支配し、独占していることから、労働者階級の貧困と絶望、あらゆる社会的苦しみがもたらされ、同時に資本家階級自身の腐敗と堕落が生まれる。

労働者階級が労働の成果をとりもどし、生産活動を自分のものとするためには、資本家階級から生産手段を収奪し、みずからの手で新しい生産の体系をつくりださねばならない。

世界市場を前提とする資本主義の発展は、労働者階級の国際的団結の条件をつくりだした。資本の蓄積は、資本家階級の新しい支配の手段をつくりだすばかりでなく、なによりも彼らの墓堀人—労働者階級を生みだすのだ。資本主義はますます労働者階級の組織的結集と反抗を増大させる。

労働者階級が、決然として、意識的に資本家階級の支配に反抗するとき、資本家階級の没落と、労働者階級の勝利は、ともに不可避である。

二、資本家階級は、自己の利害を全社会の名を僭称して貫徹する。そのために、種々の暴力装置をもつて私有財産の安全を保護するブルジョア独裁の国家をつくりだした。まつたし和解できない労働者階級と資本家階級の対立する資本主義社会で、一階級の特殊な利害をはなれた一般的な全社会の利益などというものはありえない。

したがつて、労働者階級は、資本家階級を収奪するためには、まず資本家の国家権力を粉砕し、自己の階級的権力をつくらねばならない。

資本家階級を収奪し、すべての勤労人民を味方にひきつけ、共同生産を組織し、反革命を粉砕するプロレタリアートの独裁権力なしに、労働者階級は資本主義を克服することはできない。

資本主義が生みだした世界市場は、全世界を一つの共同体に組織する可能性をもたらした。労働者階級は、資本家階級がもたらした民族国家による全世界の分割を克服する。労働者階級は、一民族国家におけるブルジョア権力の打倒と、プロレタリア独裁から、さらにブルジョア的民族国家の障壁を打ち破つて世界プロレタリア革命を完遂し、全世界を新たな共同社会に組織しなければならない。

三、きたるべき新たな共同社会、それは共産主義社会である。

労働者階級は、その団結した力によつてプロレタリア独裁の権力を樹立し、そのもとに、生産手段を資本家の私的所有から全社会の所有にうつし、すべての生産活動を資本家の私的な商品の生産としてではなく、全社会の共同の生産として組織しなければならない。

ここにおいて階級支配は消滅する。人間による人間の支配は存在できない。階級支配の消滅とともに、国家は死滅する。

全人類は解放され、階級支配にもとずく人類の前史は終りをつげる。共産主義社会は人間的諸能力の完全な開花を可能とし、ここに真の人類史がはじまる。

人類は共産主義の最初の段階・社会主義社会を経過して、生産力の急速な発展をとげ、完全な共産主義を実現する。

社会主義社会では、人類は社会的生産を共同の生産活動として組織し、唯一の基準、労働の量にしたがつて生産物を分配する。

各人は能力に応じて働き、労働の量に応じて生産物をうけとる。

もはや生産は、価値関係を媒介とした商品の生産というまわりみちをとる必要はない。個々の労働は、直接に社会的総労働の一部分となり、社会的労働は労働量にしたがつて配分され、生産物は分配される。貨幣・賃金といつた旧社会の遺物は急速に消滅する。

3　生産力の急速な上昇、科学技術の飛躍的発展、教育の完全な普及が肉体労働と精神労働との対立を消滅させる。旧社会における労働は完全に自由意志にもとずいた人間の自然に対するもつとも主体的な活動にとつてかえられる。そこでは、もはやなんの強制もなく、能力に応じて働き、必要に応じてうけとる完全な共産主義社会が実現される。

各個人は民族的および地方的制約から解放され、各個人に固着した人間の職業的分割は消滅する。個々人の自由な発展がすべての人々の自由な発展の条件となる共同社会がつくられ、人類の無限の発展が可能となる。

労働者階級は、資本主義を打倒して、階級社会を止揚して、このような共産主義社会の実現をめざして全力をあげねばならない。

四、社会主義や、ましてや共産主義が、一国において実現されると考えるのは愚劣な空想である。

それは全世界の労働者階級の共同の行動としてはじめてもたらされうるものである。

わが共産主義者同盟は、資本制国家権力を転覆し、全世界にわたるプロレタリア独裁権力の樹立と、それを通じた、全世界の社会主義、共産主義建設を、基本的な任務とする。

そのためわれわれは、万国の労働者階級の団結と、全世界の資本家階級に対する闘争の結合を達成するために努力する。

われわれはくさりきつた社会の汚物、資本家階級に対する火のような憎悪と闘争の精神をもつて武装し、闘争においてプロレタリアートの利益を守ることを無条件の義務とする。

いかなる理由によるにせよ、両階級の対立を緩和し、おおいか

くそうとする反動的幻想と徹底的に闘う。

4 資本主義の改良や改革ではなしに、資本主義そのものの打倒のために、わが共産主義者同盟は、労働者階級の先頭に立つて闘うであろう。

2 帝国主義と世界革命の展望

プロレタリアートはいかに闘うべきか

五、一八四八年の革命で、パリコンミューンで、西ヨーロッパのプロレタリアートは、新しい歴史の担い手として登場しはじめた。

一九世紀末になると、資本主義はもはや変革されるべきもの、死滅すべきものとしてのその性格を一層あきらかにした。

資本主義は、自由な競争を前提とした産業資本主義の時代にかわつて、帝国主義の時代に入つたのである。

一九世紀末には、資本主義はもはやイギリスだけにとどまらずドイツ、アメリカ、そして日本が、つぎつぎと資本主義的発展の道を歩みはじめた。

重工業の一九世紀後半における発展は、その経営に要する資本を莫大なものとした。この時代になつて資本主義に成長する国では、資本の蓄積は、もはや個人企業によつて行われるだけでは十分でない。株式会社の形式を通じて、一挙に巨大な資本を集中し銀行資本を中心とした金融資本が確立される。そして、カルテル、トラストといつた資本の結合が進み、金融資本の支配する資本主義の最高の発展段階としての帝国主義となるのである。このようにして、この時代におくれて資本主義に成長した国は、直接にもつとも近代的な帝国主義国となつた。

帝国主義経済は、技術水準の高まりにともなつて、生産力が圧倒的に上昇し、資本の規模が巨大となるにもかかわらず、労働人口はそれに照応して増加はしない。恒常化した過剰人口は、農村や中小企業に停滞し、その前資本主義的な関係をブルジョア的に分散するのをさまたげる。それは独占価格などによる農民や小企業家の収奪や、労働者の賃銀をぎりぎりまで切りさげることを独占資本にゆるすこととなる。

慢性化した失業、食うにも食えない労働条件のおしつけは、労働者階級にも、一般勤労人民にもはげしくおそいかかつてくる。

長くつづく不況、恐慌は、もはや資本主義がまつたくその歴史的生命を終えたことをしめしている。

金融独占資本は、外にむかつては商品の販路、原料資源の獲得そしてなによりも過剰な資本の有利な投下口を求めて、植民地の支配にのりだすよりになる。植民地の人民にたいするあからさまな抑圧と略奪—ここに帝国主義の腐りはてた本質は決定的に暴露される。

とくに後進資本主義国が帝国主義列強として、世界市場の争奪戦に参加することによつて、世界は分裂した諸市場圏の激烈な闘争の場となる。市場の再分割のための激烈な競争と闘争は、必然的に帝国主義間の武力衝突と、帝国主義世界戦争をひきおこす。

資本主義の危機的様相—帝国主義世界戦争において、あからさまになるその深刻な危機は、ただ帝国主義戦争を内乱へ導き、ブルジョア権力の粉砕のために闘うプロレタリアートの手によつてのみはじめて解決される。

プロレタリアートこそ、社会主義革命によつてすべての社会問題を解決しうる唯一の階級であることは決定的にあきらかとなる。

広汎に資本主義以前の関係をのこしたまま、帝国主義国となる後進資本主義国においても、プロレタリアートにとつては、ただブルジョア民主主義的任務の遂行だけを独自の課題とするいかなる中間段階の革命もありえず、プロレタリア革命が直接の課題となつている。資本主義的分解を阻止されたまま、独占資本に収奪される農民や一般勤労人民の要求も、独占資本の打倒なくしては解決の道をもたない。

帝国主義の分割された世界市場は、そのはげしい競争と衝突のなかで全世界の階級闘争をより強く結びつける。一国のプロレタリアートの闘争は、全世界プロレタリアの闘争の一環である。一国におけるプロレタリア革命は全世界プロレタリア革命の直接の導火線となり、プロレタリアートは全世界的にのみ、勝利しうることはますますあきらかとなる。後進諸国のプロレタリアートも先進諸国のプロレタリアートの援助によつて、直接に社会主義的生産を組織することが可能となる。

プロレタリア革命を一民族社会の城内での、自足的なものと考える幻想は、帝国主義世界の現実の前に、決定的に破綻する。

5 六、帝国主義戦争は、ロシアのプロレタリアートをも例外なくその渦の中にまきこんだ。いちじるしい後進性にもかかわらず、プロレタリアートはみずからの階級的立場を守るために、完結したブルジョア民主革命に期待をかけることなく、直接に権力の奪取にまですすんだ。その偉大な勝利は、壮大な全世界社会主義革命の勝利の口火となるべきものであつた。

だがプロレタリア革命は、資本主義の危機の深まりから自動的におこるのではない。前衛の組織的結集と、その正しい政治指導は労働者階級解放の第一の条件である。

事実、ブルジョア民主主義革命の完成を期待して、プロレタリア権力の樹立のための非妥協的な闘いを怠つたメンシェヴィキと四月の古参ボルシェヴィキとの日和見主義をのりこえたレーニンの帝国主義段階におけるプロレタリア革命の戦術によつてこそ、ロシア革命は勝利したのである。だがこのロシア革命によつて口火を切られ、ヨーロッパの廃墟の上で闘われたドイツ、ハンガリー、イタリアの革命運動は、資本主義を転覆するに十分なほど強力なものであつたにもかかわらず、これを指導する党の生長がおくれたために重大な敗北を喫した。「左翼小児病」のセクト的誤謬を、社会民主主義者との無原則的な統一戦線の維持におきかえることによつて、一九二三年秋の決定的瞬間における行動をためらつたドイツ労働者階級の敗北を最後に革命運動の波は退潮をはじめ、ロシアのプロレタリア権力は孤立した。

この孤立したプロレタリア権力の維持を自己目的化し、レーニン死後、ついにロシア共産党とコミンテルンを支配するにいたつたスターリン主義者の誤謬によつて、ロシア・プロレタリアートにつづくべき全世界プロレタリアートの闘争は、敗北の歴史をたどることになつた。

二六年、イギリスの炭坑労働者のゼネストがうみだした危機は改良主義的幹部との取引のうちに失われ、中国第二次革命は民主

革命を絶対化し、民族ブルジョアジーに追従したスターリン主義者の方針によつて、国民党のクーデターの血の海の中におぼらされた。

社会民主主義者とスターリン主義者との裏切りに助けられて、独占資本は、自己の社会体系を救いつつ、熱狂的な投資によつて最後の蓄積をつづけた。しかし、その熱狂は、やがて大恐慌による沈滞にとつてかわられた。資本の破壊の影響は、巨大な新設固定設備による生産能力の過剰としてあらわれ、機械はなん十カ月にもわたつて運転を休止する一方、数百万の労働者が、街頭に投げだされた。株式の大量売却が生みだした株式恐慌の危機的様相は、従来の金融資本の蓄積の様式をもつてしては、もはやこの巨大に発達した生産諸力を処理することができなくなつたことをしめしていた。深刻な社会的危機が生まれた。階級対立の激化は、帝国主義戦争と十月革命にひきつづく国際的な階級決戦が迫りつつあることをあきらかに示していた。

従来の方法ではみずからの政治的支配を維持しえなくなつたドイツの独占ブルジョアジーは、昂揚したプロレタリアートの運動をファシズムにより粉砕し、新たな道をきりひらいた。それによつてドイツブルジョアジーは、国家の強力な介入によつて搾取する条件を大巾に拡大した。しかしスターリン主義者は、革命的危機における情勢を一変するために、改良主義的指導下にある社会民主党労働者との反ファシズム統一戦線の実現によつて闘うのではなくて、「社会ファシズム論」にもとずく最後通牒主義によつて、かたくなにその統一戦線の実現を阻止し、全世界プロレタリアートの注視の中に最大の敗北を喫したのである。ドイツ金融資本は、ヒットラーのもとで国家独占資本主義へと推移していつた。

一方、フランスのプロレタリアートは巨大な階級的力を発揮してたちあがり、ファシストの力を徹底的にくじき、統一戦線政府を実現したが、それは崩壊しかけているブルジョア民主主義を支えることをめざして、プロレタリア的綱領をすてさることによりプロレタリアートにふたたび犠牲を強いたのである。人民戦線政府は、国家独占資本主義への過程に照応した経済政策も採用できぬままに、みずからの命を断つた。

革命運動の再度にわたる裏切りは、帝国主義の延命—そして核兵器の出現をうみだした第二次帝国主義戦争の勃発という悲惨な結果をもたらした。第二次大戦は、あきらかに帝国主義戦争であつた。それにもかかわらず、階級闘争の基本的戦術をソ連邦の国境の安全を保障する外交政策に従属させたスターリン主義者の手によつて、「帝国主義戦争を内乱へ」というレーニンの旗印は投げすてられ、「別個にすすみ、一緒にうて」の統一戦線の原則も帝国主義者との没階級的な「反ファシズム統一戦線」におきかえられた。

その結果は、戦後の階級闘争に、すくいがたい階級協調主義をもちこんだ。フランス、イタリア、日本などの先進資本主義諸国のプロレタリアートは、連合軍に対する幻想によつて、闘わずして空しく敗れねばならなかつた。大恐慌、大戦そしてそれにひきつづく階級対立の激化のなかで深刻化する危機を、帝国主義は労働者の前衛の裏切りにたすけられて、国家独占資本主義としてのりこえようとする。

かくして社会主義にとつてかわられるべき世界資本主義は、プロレタリア革命の挫折によつて、新しい延命の形式を見出した。

七、あらたな延命の形式、それは国家独占資本主義である。

国家独占資本主義は、原子力産業、電子工業、合成化学工業などの導入、軍事技術の一層の発展などにみられるすでに巨大に発展した生産力を、資本主義がみずからの自由な運動様式の中に包摂しえなくなつたことを示している。

支配権を握る株主は、中小株主を無力化し、会社の利益をかならずしも全部配当にあてることなく、会社の内部に留保し、固定資本の巨大化にともなう莫大な資金を調達する機構としてそれを確立する。この自己金融の結果、資金は資本市場の制約から解放されて、企業の拡張をきわめて容易なものにするとともに、独占の形式は極度に進行する。この自己金融の蓄積の様式は、租税などによつて集中された莫大な社会的資金を、低利長期の国家資金として重要産業部門に供給したり、あるいは内部留保金にたいする免税策や、低金利政策、消費者信用の拡大などの経済政策によつて、独占利潤を維持し、もしくは蓄積を促進するなどの国家機関の動員によつてはじめて可能とせられるものである。

この国家機関によつて補完された自己金融による蓄積様式の展開は、株式資本の発展したものであり、資本所有と経営機能の新たな関係にともなつて、あたかも資本の社会化が行われるような幻想を生みだす。しかし、もともと株式制度に必然的な群小株主の無力化が進められ、少数の支配的株主は、自己の利害を、会社それ自体の利害としてあらわすことによつて、私的所有を一層強化する。

そして私的資本の限界をこえ、資本主義的再生産の存続には不可欠の部門は、会社所有から国家所有に移される。私的所有は、このような国家の直接の介入によつてますます強化される。

プロレタリアートは、この巨大に発展した生産諸力をみずからの手に握らねばならない。プロレタリアートによる生産と消費の直接的な社会主義的統制の実施は、生産力の飛躍的な発展を可能にするにちがいない。国家独占資本主義は、直接に社会主義を準備するものとなつている。

プロレタリアートは自己の階級支配をうちたてれば、中心的な産業を収奪することによつて、社会的労働の直接的配分と生産物の労働に応じた分配という社会主義的原則を、きわめて容易にみちびきいれることを可能とするであろう。そして国家独占資本に特有の信用、財政などの機構を、管理、簿記、計算などの経済的変革の道具として利用しながら、急速に生産力を引きあげねばならない。

このように国家機構との結合を強めた「公的性格」の強化の中で、社会主義の物質的準備は、完全に熟しきつている。

プロレタリアートの決然たる行動と、政治権力の奪取こそが、すべての可能性をきりひらく。国家独占の「公的性格」に眩惑された一部の「現代マルクス主義者」が流布するように、政治権力の奪取の展望を欠いたたんなる企業の「国有化」の促進は、それ自体けつしてプロレタリアートの解放の道をきりひらくものではない。個別的金融資本のそれぞれの有形無形の抵抗があろうとも国家独占資本主義は権力によつて私的所有を集中的に擁護するものにほかならないからである。

それゆえに、公企業、大独占部門の労働者の行動に一切の鍵が握られている。もちろん、これらの基幹産業の労働者が、国家機関の補助や中小企業などからの価値の移譲によつて形成される独占利潤のおこぼれによつて買収され、中小企業労働者の戦闘性の不断の増大に対応して、たえず貴族化の危険にさらされていることは事実である。だが、資本家階級の決定的な政治的、経済的攻勢に対して組織された労働者の行動は、容易に国家権力との対立をまねき、みずからの決然たる行動なしにはいかなる矛盾の解決もありえないことが、日々の階級闘争の現実の中であきらかにされずにはおかない。この段階で、全国的に単一な政治方針によつて統一され、いかなる場合にも、労働者階級を革命に向つて指導しうる前衛党の役割はいつにもまして重要となる。

ブルジョア経済の国家的障壁をこえた結合は、この段階では一層進む。

一国のプロレタリア革命は、必然的に世界プロレタリア革命の一環となり、各国のプロレタリアートの連帯は、客観的にますます強く要請されることとなる。

ブルジョア的な国家的分割を止揚し、世界を単一共同体、社会主義社会に組織する任務はプロレタリアートの直接の課題となつているのだ。

後進国における民族革命の中で、自己のブルジョア的発展をとげようとする民族ブルジョアジーも、必然的に国家資本主義的な方策をとるようになつた。プロレタリア運動は、ここでも明確に自己の権力の確立の任務に直面しているのである。

植民地の民族革命運動も、本国のプロレタリア革命とともに、単一のプロレタリア革命を形成する方向に進んでこそ、勝利の道はひらけるのである。

民族ブルジョアジーによる国家資本主義的安定の道か、プロレタリアートの権力の掌握か、道はこの二つの方向にしかない。いかなる平和主義的幻想をもはねのけて、階級闘争の現実は、プロレタリアートに、非妥協的な独自の闘争の決定的な重要性を教えているのである。

八、後進国ロシアにおける社会主義革命は、「いくつかの先進諸国のもつとも積極的な協力」（レーニン）によつて、すなわち「国際的な世界革命に支持されて」はじめて勝利しうると考えられていた。

だが、西ヨーロツパ・プロレタリア革命の端緒であり、その一部としてのみ考えられていたロシア・プロレタリア革命は、西ヨーロツパ革命の退潮のうちにとり残されてしまつた。

孤立をよぎなくされたプロレタリア権力は、世界革命の意志に貫ぬかれたプロレタリア前衛の意識的努力なしには、世界のプロレタリア革命の基地とはなりえない。

だが、世界革命の敗北による孤立を、一国社会主義論によつて合理化し、絶対化したスターリン主義者は、必然的に種々の歪曲をもたらし、歪められた過渡期社会を社会主義と詐称するようになり、全世界プロレタリアートの解放闘争に重大な損害を与えている。そしてそれはプロレタリアートの上にたち、コンミューンの原則を破壊して包括的に政治権力を掌握する特殊な官僚層を出現させている。

現在のソ連社会を支配するものは、十月革命の成果をうばいさり、世界革命の展望を放棄して、一国革命の幻想の中で特権的支配をかためてきたこのスターリン主義官僚である。彼らの政策追求の目標は、特権を保持するために均衡を守り現状を維持することである。

そのために彼らは、国際的には平和共存政策を採用して、死滅しつつあるブルジョアジーと取引し、彼らの打倒を通じての恒久平和ではなく、彼らとの妥協による不安定な平和を求める。これは各国の党をして帝国主義者に圧力をかけさせるための外交政策の道具にかえさせてしまうことによつて、階級闘争を救いがたい改良主義の道にひき入れる。

国内的にも、国有化経済の発展にもかかわらず、労働時間の社会的配分と労働給付に比例した生産物の分配という社会主義的原則は採用されず、依然として不平等分配が存在し、価値関係が残存している。しかも、数次の五カ年計画の成功によつて、生産力の高度の発展がかちとられたにもかかわらず、ＭＴＳ解散、工場管理機構の改革などは、独立採算制の強化によつて、価値法則の一層の貫徹を許し、労働者の完全な解放をさらにおくらせ、官僚の特権化をすすめるものとなつている。

労働は階級社会におけると同様に、まつたく生活のための手段にほかならず、極度の差を伴つた賃金制度と、きびしい労働規律によつて維持されている。

ソ連邦のプロレタリアートは政治的にも、経済的にも、まだ完全に、解放をかちとつてはいない。

現在のソ連邦は社会主義ではない。それは社会主義への過渡期が停滞して歪められ、絶対化された存在である。

帝国主義ブルジョアジーの全世界的打倒の過程で、ソ連邦のプロレタリアートは特権的な官僚支配を打倒し、奪われた自己の政治的支配を回復せねばならない。

九、二度めの世界帝国主義戦争は、各国のブルジョア支配を重大な危機におとし入れた。スターリン主義の裏切りとそれに助けられた広汎な愛国主義的気運の前に後退させられていたプロレタリア運動は、大戦の過程の中でふたたび高揚に向つた。

日独伊帝国主義者の敗北によつて、未曾有の富と人命を破壊して戦争が終つた時、世界プロレタリアートは危機に瀕したブルジョア支配に対して、フランスで、イタリアで、日本で果敢な突撃を開始した。

東ヨーロツパの数カ国と中国はブルジョワ支配から離脱し、多くの植民地諸国は帝国主義の支配をくつがえして政治的独立をかちとつた。

だが、帝国主義戦争に対する「反ファシズム解放戦争」というすくいがたい没階級的規定は、世界プロレタリアートの闘争を各国の「国民的復興」の熱狂に埋没させることによつて、主要な資本主義国においてブルジョア支配の打倒にまでつき進めることを決定的に妨げた。とりわけ決戦を迎えたフランスとイタリアのプロレタリアートは、ブルジョア支配の手先となつた自称前衛党の恥ずべき誤りによつて徹頭徹尾裏切られつづけた。権力を目の前にしたギリシャ・プロレタリアートの英雄的闘争は、ソ連の官僚主義者の拱手傍観する中で鮮血の犠牲のうちに粉砕された。

大戦直後、インド、インドネシア、フイリツピン、ビルマ、中国の各地でまきおこつた革命の嵐は、民族ブルジョアジーに対する無原則な妥協を、またその裏返しとしての極左戦術によつて重大な後退をよぎなくされた。

こうして戦後の革命的危機の一時期をかろうじて切りぬけたブルジョアジーは、「国民的復興」の過程で、自己の救済の道を国家独占資本主義の確立に見出した。

戦争によつて直接破壊をこうむることなく、莫大な利潤を吸いあげたアメリカ・ブルジョアジーは、西欧資本主義の危機の中で決定的優越性をかちえた。彼らは、集積した巨額の資本をもつてこれらの国の経済復興を援助しながら、アメリカの帝国主義を頭とする世界ブルジョアジーの再編成をなしとげた。

こうして、一九四七年を一つの転機として、危機をのりこえた世界ブルジョアジーはアメリカ帝国主義者を盟主として結束し、資本主義国のプロレタリアートおよびブルジョア支配の外に立つたソ連邦を中心とした国々に対するあらたな攻撃を開始した。

この時、全世界のプロレタリアートは、このブルジョアジーの反撃をうちやぶり、あらたな革命への展望をきりひらく決然たる闘争にせまられていた。

だが、帝国主義者との協調の夢やぶれたスターリン主義官僚はこの危機にあたつて、ソ連邦国境の安全のためコミンフオルムを結成し、ブルジョア支配に対する階級闘争を民族独立と民族主義の擁護の闘争にすりかえた。

「冷い戦争」の激化の中で、一九四九年、スターリン主義官僚は、民主主義的目的に限定された平和運動に全世界プロレタリアートを釘づけにし、ブルジョア支配の打倒をめざす階級闘争を放棄した。

さらに資本主義の一応の安定とともに一九五四年からソ連スターリン官僚によつて前面におしだされた「平和共存」政策は、「両体制」の生産力の競争が社会主義の勝利とプロレタリアートの解放を保障するというまつたく没階級的なものであつた。この政策はブルジョア権力の打倒と世界革命の戦略をプロレタリアートに放棄させ、なによりも現代資本主義社会における両階級の非和解的対立をおおいかくし、ブルジョアジーに対するもえるがごとき憎しみを眠りこませることによつて、現在のあらゆる裏切りの根源となつている。

しかし、社会主義の勝利をきりひらくものは、けつしていわゆる「両体制間の平和的生産競争」などではない。資本主義諸国およびソ連邦、東欧、中国をふくめて構成する単一の陣営、世界プロレタリアートが、国際ブルジョアジーにいどむ階級闘争こそが世界史の方向を決するものである。

一方、戦後十余年、アメリカの圧倒的主導権のもとに展開されてきた世界資本主義の再建過程は基本的に終り、あらたな資本蓄積の強化の中で、アメリカ帝国主義と対等の地位を要求する帝国主義国は、激烈な市場再分割の闘争にふたたび突入しつつある。民族ブルジョアジーの手によつて独立を完成し、国家資本主義的手段によつてブルジョア的発展をとげつつある国々の世界市場への登場は、この闘争を一層激烈なものとするだろう。

アメリカを盟主とした単一の国際ブルジョアジーの結合を象徴するかにみえたＮＡＴＯなどの軍事・政治同盟にかわつて、めまぐるしい諸国の結合、離反、数カ国によるブロックの形成、虚々実々の外交的取引が、世界政治に登場してきた。

あらゆる平和的小ブル的幻想をうちやぶつて、激化する資本の競争は、相互の公然たる衝突と、なによりもプロレタリアートとの決定的な階級的対立をあらわなものとするだろう。

第二次帝国主義戦争とそれにつづく「冷戦」の十数年は、空前の破壊力をもつ原子兵器を生みだした。ブルジョアジーは全面的な原子戦争の勃発をもつてプロレタリアートを威嚇し、スターリン主義者はこのことをもつて平和共存戦略を合理化している。

帝国主義戦争のもたらす凄惨な結果を阻止するものは、まさに帝国主義に対するプロレタリアートの、非妥協的闘争を措いてはない。ブルジョアジーの武装解除は、ただプロレタリア世界革命によつてのみ可能である。

プロレタリアートのブルジョア支配にたいする闘争なしに協定や、集団安全保障、軍備撤廃などによつてのみ帝国主義戦争を阻止しうるとするのは、小ブル的幻想でしかない。

今や、プロレタリア世界革命だけが、労働者階級の解放、全人類の解放の唯一の道であることは疑いもなくあきらかとなつた。プロレタリア革命と社会主義の客観的諸条件は成熟しきつている。プロレタリアートの決然たる行動に、したがつてその指導部の確立に、すべてはかかつている。

わが同盟は、平和共存とソ連邦の生産力の上昇によつて世界に社会主義を建設するというようなまつたく非革命的見解を認めない。先進国および後進国において、プロレタリアートをブルジョア階級に対する決定的闘争に導きブルジョア権力を転覆し、この闘争の中で同時にソ連社会を支配する特権官僚を打倒し、全世界にプロレタリア権力を樹立するために、われわれは全力をあげて闘うであろう。

3　日本革命の展望と日本プロレタリアートの任務

一Ｑ　日本における資本主義の発展は、先進資本主義国がまさに帝国主義段階に移行しようとする時期に、明治維新によつてその端緒がきりひらかれた。

極東市場、とくに中国の支配をめざした先進資本主義国のはげしい競争は、若い日本資本主義にも重圧となつておしかかつた。

これらの先進資本主義諸国間の競争の激化による圧迫と、植民地化の危険に抗しつつ、原始的蓄積の過程を強行した日本の資本主義は、自由な政策を基調とした産業資本主義には成長しなかつた。

近代的生産様式の移植、育成は、はじめから官営による機械制大工業によつて行われ、それに要する莫大な資金は国家の機構や特権的株式会社や機関銀行などを通じて集中された。

移植された大工業は、有機的構成が高く、資本規模にくらべてそれほど大量の労働者を必要とはしなかつた。必要とされた労働力も、繊維部門などでは、婦女子の労働力を徹底的にしぼりつくすことによつてまかなうことができた。それは無産労働者を生みだす原始的蓄積の過程をゆがめ、農業における資本主義的経営の

発展をおしとどめた。

地租改正の過程で没落した農民は、高い小作料にもかかわらず土地にしがみつき、それに寄生する「寄生地主制」を成長せしめることになつた。高率の現物小作料と、それとともに可能となつた「寄生地主制」は、けつして封建的なあるいは半封建的な生産関係の存在を意味しはしなかつた。それは、帝国主義段階に資本主義国となつた日本の資本主義的発展の特殊な状況を示すものにほかならなかつた。

食うにも食えない賃銀と悲惨な労働条件におえぐ労働者、高額の小作料に悩む貧農の犠牲の上に、蓄積をつづけた日本の資本主義は、次第に近代的帝国主義としてみずからをきたえあげていつた。それは、国家の支援による原始的蓄積をテコとして、はじめから政商的利権を基礎とする株式企業として出発し、持株支配会社を頭にいただきながら、銀行を中心に封鎖的結合を強めた財閥コンツエルンという特殊な形式で確立した。

天皇制権力は、ブルジョア的支配の中心としての本質を、しだいにあきらかにしていつた。

しかし、第一次帝国主義戦争で、帝国主義諸列強の闘争の間隙をぬつて漁夫の利をえた日本帝国主義も、増大していく労働者階級の反抗と激化する市場争奪戦の中で、みずからの延命をますます必死にあがきもとめざるをえなくなつた。

明治年間に獲得した朝鮮を足場に、軍事力を背景にした強盗的な進出が大陸市場へ、開始された。

第一次大戦の比較的順調な資本蓄積の過程が生みだしたデモクラシー運動と政党政治は、上からの公然たる軍事的警察的独裁によつておきかえられた。

それは、明確な革命的展望をもちえなかつたが果敢な闘いをもつて反抗をつづけてきたプロレタリアートの戦闘組織を、野蛮に殲滅しつくすことによつてなされた。

第二次大戦前「日本共産党」は、国際的なスターリン主義的誤謬の一翼として、日本資本主義にたいする明確な闘争の方針を欠いており、ブルジョア民主革命の完遂の後に社会主義革命に進むという誤つた戦略路線に立つていた。そしてきわめてセクト的な実践の方針は、帝国主義戦争の前夜においても、広汎な労働者階級を反帝闘争に結集することを不可能にし、みずからも、弾圧の前に壊滅しさることによつて、資本主義の決定的危機を無為にむかえることとなつたのである。

二 極東における市場分割の死闘

極東における市場分割の死闘は、やがて日米帝国主義者の公然たる軍事的対立をまねいた。

一九三一年中国東北部の進出に成功した日本帝国主義は、さらに華北侵略をめざし、一九三七年全面的な中日戦争にのりだしたのである。

日本の軍事的経済的進出、とくに、アメリカをはじめとした列強の支配する西太平洋市場への脅威は、全面的な太平洋戦争となつて爆発した。

戦時経済の要請は、日本資本主義に巨大な重化学工業の発展をうながした。これらの部門への進出は、厖大な固定資本の調達にこたえる大規模な資金の集中を必要とし、財閥の封鎖性を桎梏たらしめずにはおかなかつた。

国家権力を全面的に動員することによつて、日本帝国主義は国家独占資本主義としてみずからを確立したのである。

しかし、最大の資本家的富を集積したアメリカ帝国主義者の力量の前に、太平洋戦争において日本帝国主義者は全面的な敗北を喫した。

日本帝国主義の惨敗は、資本主義日本に決定的危機をもたらした。

戦時中窒息させられていたプロレタリア運動は、怒濤のような前進を開始した。ブルジョア権力を打倒する日本プロレタリア革命にとつて、決定的戦闘の瞬間が迫つてきたのである。

しかし、この闘争を指導した日本のスターリン主義者、「日本共産党」は、二段階戦略に固執して、日本資本主義の打倒について徹底的な闘いの方針をつねに欠いたばかりでなく、第二次大戦を「反ファッショ戦争」と考える無内容な規定から、支配者米占領軍を「解放軍」とするような誤りさえ犯していた。

彼らは四七年二月一日ゼネストをおしとどめ、さらに地域人民闘争をはじめとした右翼的議会主義的戦術によつて労働者階級の闘争を混乱させ、資本家階級の危機からの脱出と立直りを助けた。

資本家階級は、国家独占資本主義として、新たな支配体制をととのえ、さらにプロレタリアートの闘争をきりくずすために、農地改革によつて、厖大な自作農をつくりだして農村の市場を解放的なものとし、さらに天皇制権力を背景にひつこめ、人民にブルジョア民主主義的権利をあたえる一連の措置をとつた。

このような方向は、第二次大戦での仇敵日本の弱体化をねらうアメリカ帝国主義の意図とも一致した。

しかし、敗戦、占領という事実は、日本ブルジョアジーにいくつかの後退をよぎなくさせたとはいえ、日本資本主義の合法的発展を無視したアメリカ帝国の専横なふるまいや、「全一的支配」を結果しはしなかつた。むしろ、アメリカ帝国主義者の占領政策は、「民主化」の擬装のもとに、日本資本主義の合法的発展を促進した。財閥の解体は、国家独占資本主義的発展が、財閥の封鎖的性格を解消せしめる方向に進むことをはやめ、徹底化した。各種の国家による資金の援助は、戦争経済によつて推転を必然とされていた国家独占資本主義の機構を保存せしめようとする意図からでたものにほかならなかつた。

「社会党」片山内閣も資本家の利益を代表して、国家独占資本主義的再建を忠実に推進したのである。

四六、四七年の高揚期を社会党、共産党の裏切りによつて失つた日本プロレタリアートにたいして、危機をきりぬけたブルジョアジーは、四九年から資本家的安定をめざした決戦をしかけてきた。

この時、無為に決定的時期をすごしたとはいえ、日本プロレタリアートは十分な階級的戦闘力をもつており、ブルジョアジーの攻勢を撃破してさらにブルジョア支配そのものを打ち倒す闘争に進むことは十分可能であつた。

しかし、「日本共産党」の採用した「産業復興闘争」の方針とストライキまで抑制する極端な右翼戦術は、プロレタリアートに無惨な敗北をよぎなくさせたのである。

いく万という戦闘的労働者が社会民主主義者の恥ずべき「民同」運動に助けられて工場を追われた後、総潰走の時期にもひとしい

敗北の五〇、五一年に、日本共産党は一転して極左的戦術を階級闘争にもちこんだ。一揆的で、戦略的には右翼的本質に貫かれた「火焔ビン戦術」は日本プロレタリアートにはかりしれない損害をあたえてしまい、ブルジョアジーは易々と自己の再建をすすめ朝鮮での米帝国主義者の軍事的冒険に協力して、一挙にその力量をつよめ、新たな資本主義的発展の方向をとるにいたつたのである。

一二、一応の政治的安定をかちとつた日本ブルジョアジーは、アメリカブルジョアジーとの間に、帝国主義的な階級同盟を結び、経済的力量を強化して、ふたたび海外市場への進出と一大帝国主義への飛躍を夢みている。

国家独占資本主義は、租税や零細な国民預金を源泉とする長期かつ低利の国家資金を、主として、動力、輸送、重要輸出商品を生産するような巨大独占資本に、設備資金として融資する機構を確立する。このもとで巨大独占資本を中心とした蓄積は、ますます進行した。

日本資本主義は、すでにその生産力において、戦前に数倍する実力をもつにいたつた。

しかし、激化する海外市場争奪戦の中で、アメリカ、イギリス、西独などとの競争戦にかちぬくためには、日本資本主義は、なによりも徹底的な設備の近代化を完遂し、労働者階級を一層強く資本の支配にしばりつけなければならない。

五六、七年から全産業で開始された一連の合理化計画は、このようなねらいをもつて進められている。

その上に、彼らは、自己の政治、軍事両面でも一流の帝国主義強国としての体制をかため、東南アジアなどへの資本輸出をはじめとした経済的進出をめざしている。

労働者階級にたいする政治的抑圧は、彼らの支配を上から強化するための彼らの攻勢としてはげしくなつてきた。

彼らはまた、戦後の労働者階級の闘いの高揚の中でよぎなくされたプロレタリアートへの政治的譲歩を、ふたたび奪いかえそうとして虎視たんたんとしでいる。

資本家階級は、アメリカ帝国主義との同盟をさらに対等なものに修正し、かためて、自己の階級支配維持の重要な要因としながら、自力で進出を開始している。

日本帝国主義の危険な侵略的本質は、すでに歴史的に証明ずみである。

日本帝国主義の海外への膨脹と、国内での支配体制の強化の道を阻止するもの、それは資本家階級への非妥協的闘争を通じて、帝国主義の支配そのものを打倒する労働者階級の闘争以外にはない。

すべての社会的矛盾の根源、資本主義を止揚し、社会主義的生産を組織することは、日本プロレタリアートにとつて直接の日程となつたのだ。

日本プロレタリアートは、明確に、自己の階級的目標──資本家の収奪と社会主義の建設をかかげて、日本ブルジョアジーを打倒する革命の勝利のため闘わねばならぬ。

プロレタリアートは、この闘争の中で、農民をはじめとした中間的諸階層を味方にひきつける現実的努力をはらわねばならない。

しかしプロレタリアートは、ブルジョアジーに対する闘争において、自己の階級的力量以外に、基本的にはなにものをもたのむことはできない。プロレタリアートが独力でも非妥協的に闘うとき、はじめて農民をはじめとした中間諸階級も、プロレタリアートに味方する可能性が生まれるであろう。

日本プロレタリアートは、ブルジョア支配の道具、ブルジョア議会を、革命にいたる闘争の過程で積極的に利用しつつ、しかし終極的にはその粉砕とプロレタリアートの独裁権力──ソヴイエト政府の樹立のために闘かわねばならぬ。ソヴイエトは、労働者が各工場を基礎に、一定比率によつて選出した代表を基軸とし、地域別産業別に、一般人民層をふくめつつ組織される。ソヴイエトは、単なる立法機関ではなく、同時にすべての政治的、経済的行政機能を果す行動機関である。そこでは、行政機関勤務者に対する人民の下からの点検の自由とリコール権が保証され、彼らの報酬は一般労働者の水準に定められる。こうして労働者階級は、完全に政治の疎外から解放されるのである。

勝利せる日本プロレタリア権力は、ただちに次の政策を遂行し全世界の社会主義革命の尖兵の任務を果さねばならない。

(1) 一切のブルジョア的弾圧措置の撤廃。
(2) 自衛隊・警察・公安調査庁・海上保安庁などのブルジョア権力機関の解体。
(3) ブルジョア裁判制度の廃止と裁判官の民主的選挙制の確立。
(4) 労働者の武装による民兵組織。経過的なものとして、位階制の存在せぬ陸・海・空赤衛軍の建設。
(5) 労働者階級の政治活動の完全な自由。労働者階級の集会・言論・出版・結社の自由とその経済的保障。労働者のストライキ・街頭デモの完全な自由。
(6) ブルジョア反革命の粉砕。
(7) 労働者政治犯の即時釈放、一切のデッチ上げ事件の責任の追求。
(8) 通信・報道機関の国有化と労働者管理。
(9) すべての重要産業の国有化と労働者管理。
(10) 金融機関の全面的国有化と労働者管理。
(11) 商業の消費組合組織による全面的国家管理。
(12) 留易の全面的国有化と労働者管理。
(13) 労働時間の短縮、大巾賃上、労働量による配分の原則の漸次的導入。
(14) 賃労働の廃止をめざす。
(15) 機械・化学肥料・農薬などの技術援助と国家資金援助によつて農村に社会主義的共同生産を組織する。
(16) 農業労働の分野でも労働量による分配の方向を強化する。
工業生産の発展と都市と農村の結合により農村人口の工業生産への吸収をはかる。
小手工業層の社会主義的組織化を物質的技術的に援助する。
基幹産業を中心とした社会主義的計画経済の組織。
資本家の所有地邸宅その他の財産の無償没収。
いつさいの秘密外交の公開、秘密条約の破棄。
外国資本の投資、借款の無償没収。
軍事基地をはじめとした外国施設の接収。

全世界プロレタリア革命のための外交政策の推進。
(17) いつさいのブルジョア的諸法規の廃棄。
(18) 男女差別の全面的撤廃。
(19) すべての医療機関の無償利用の確立。
疾病者、老人、小児への完全な社会保障制度の確立。
(20) すべての教育の国家管理とその無償化。
教育の生産的活動との結合。共産主義教育の普及。
(21) 科学的研究の完全な自由と、科学者の自主的研究のための物質的援助。

日本におけるプロレタリアートの闘争は、全世界のプロレタリアートの闘争、とくにアメリカ、東南アジアのプロレタリア運動と強く結びついている。

日本プロレタリアートは、世界革命の遂行のため自己を世界プロレタリアートの城塞とし、とりわけ、アメリカ、東南アジアのプロレタリア革命の勝利のため、直接援助の手をさしのべねばならない。

それはまた、ソ連邦、中国、朝鮮のプロレタリアートの官僚支配打倒とプロレタリア権力復活のための闘争に協力し、まさに全世界のプロレタリア革命の尖兵としての光栄をになわねばならない。

4　真のプロレタリア前衛を組織し、共産主義者同盟を強化せよ

一三、労働者階級は、自然発生性に頼つているあいだは、自己を解放することができない。労働者の階級意識は、資本主義の下ではただちに明確な単一の階級意識によつて貫ぬかれることはない。したがつて、労働者階級は自己を解放するために、階級全体から組織的に独立し最高の階級的意識によつて武装された前衛組織の指導によつて、はじめて革命を達成することができるのである。

ロシヤ十月革命の勝利は、ただ、このような前衛組織、ボリシエヴイキ党の指導によつてのみかちとられたのであり、正しい革命的方針の下に結集して、自己の全生活をプロレタリアート解放の事業に捧げ、階級的自覚にもとづいて活動する職業革命家を中核とする前衛組織の存在こそが、革命を現実に勝利させることができるのだ。

日本革命の勝利が、既存の前衛政党の日和見主義を打倒する新しい前衛政党の成長によつて可能となると同時に、全世界プロレタリア革命は、モスクワを中心とする既成の諸国共産党に代る、真に革命的意識に貫ぬかれた、新しいインターナショナルを必要としている。

最初、プロレタリア世界革命のための革命組織として出発した第二のインターナショナルが、世界資本主義の帝国主義段階への突入とともに、日和見主義の組織に堕し、レーニンがこれの打倒を通じて第三インターナショナルを結成した教訓を学んで、わが

同盟は、今日公認の諸国共産党が、国家独占資本主義の下で、まつたくの改良主義的組織に転落したことを弾劾し、明日といわず今日にも新しいインターナショナルを結成するために活動するであろう。

スターリン主義官僚に対する国際的な左翼反対派として、一九三八年に登場した第四インターナショナルは、スターリン主義に対するトロツキーの弾劾の革命性にもかかわらず、今ではまつたく、トロツキーの理論的組織的欠陥を一層拡大したものとして、現実の階級闘争において世界プロレタリアートを指導する上で決定的に無力である。

わが同盟は、公認の諸国共産党の影響の下にある革命的労働者を日和見主義から解き放ち、第四インターナショナルあるいは独立左翼組織の下にある革命的労働者との行動における革命的統一のために努力し、新しいインターナショナルを急速に組織するために全力をあげて闘うであろう。

だが、われわれは、日本革命の勝利をかちとる革命的実践なしに新しいインターナショナルを語るほど非実践的ではない。わが共産主義者同盟は、プロレタリアートの力量の世界的高揚こそが新しいインターナショナルの現実的基礎であることを、かたときも忘れないであろう。

一四、日本における既成の階級政党はすでに、完全に労働者階級の指導部としての資格を失つた。

社会党は、そのおびただしい中間的構成分子にみられるとおり中間的・妥協的性格をその特色としている。この党は一貫した動揺と日和見、平和主義および議会主義によつて完全に毒されている。左派は、ブルジョアの手先である右派と党内において絶えず争わねばならぬ状態である。現在、労働運動の主流を占める党内左派も、完全な社会民主主義的性格をもつており、つねに労働者階級の利益を裏切り、その階級的成長を阻んでいる。

日本共産党は、コミンテルン日本支部として結成されて以来、多くの革命的前衛をその隊列に加えながら、その国際権威主義と盲従主義とによつて、裏切り的な国際共産主義運動の道をともに進んできた。

世界革命を放棄して一国社会主義建設を強行した結果、歪曲された過渡期を絶対化することになつたソ連邦に、物質的基盤をもつた国際共産主義運動の日和見主義は、同時にこの党をも毒した。

三二年テーゼの誤つた二段階戦略に導かれたこの党は、戦後四六、四七年の革命的高揚の時期に、救いがたい右翼日和見主義によつて日本プロレタリアートを混乱におとしいれ、四九年の決定的戦闘にプロレタリアートを無惨な敗北へとみちびいた。さらに突如としてこの党が採用した極左冒険主義戦術は、日本プロレタリアートに致命的打撃を与えたのであり、五五年以来は、反対に極端な右翼的思想と戦術によつて、日本プロレタリアートの革命性を眠りこませている。そして現在では、平和共存にもとずくブルジョアジーに対する中立の政策で、その裏切りを完成している。

この党は、現在、官僚主義とセクト主義とによつて党内のヘゲモニーを確保している部分と、党内反対派との派閥抗争をくりかえしている。

党内反対派は、世界資本主義の国家独占資本主義への推転にと

もなう国家の「公共的性格」の増大に眩惑され、一握りの独占に対する国民的な統一戦線という没階級的な戦術を採用し、議会を利用して社会主義へ平和的に移行するという現代の改良主義・構造的改良派の立場にたつている。

日本の戦闘的プロレタリアートは、もはや断じてこれら公認の指導部の枠内に止つてはならない。既成の階級諸政党の日和見主義ときつぱり断絶することは焦眉の急務である。すでに、日本共産党内の下部の革命的労働者は、党中央の官僚主義者の弾圧の中で、労働者階級の真の利益のために闘おうとしている。われわれは、彼らの革命化を援助し、日和見主義打倒のために協力して前進するであろう。

共産主義者同盟は、日本プロレタリア革命を指導する新たな階級政党となるために、みずからをきたえるであろう。

共産主義者同盟は、プロレタリアートの真の前衛部隊として、ブルジョア階級に対する戦闘精神で武装され、プロレタリアートの現実の闘争の先頭にたつて闘うであろう。

一五、われわれは、プロレタリア革命以外に資本主義を爆破する道のないことを高らかに宣言する。既成の階級諸政党にたいする共産主義者同盟の態度は、すべてここからでてくる。われわれはプロレタリアートの真の階級的利害以外のなにものをも、自己の利害とはしない。

共産主義者同盟の組織原則は民主集中制である。組織の強化は個人の利益に優先する。一切の非階級的分子、怠惰な臆病者がその隊列に加わることは許されない。

共産主義者同盟の組織の規律は、個々の同盟員の階級的な主体的自覚によつて維持される。われわれはこれらを保障するために常に正しい政治方針を打出すことに全力を集中する。

同盟員の階級的自覚、自己犠牲の精神および政治方針の正しさこの下での労働者階級との固い結合、これが組織を強化するただ一つの保障である。

われわれは、同盟内における理論上、方針上の原則的な対立に意見交換の完全な自由と一切のあいまいな妥協を排する徹底的な討論によつて前進していくであろう。この際にわれわれは、プロレタリアートの利益を一切に優先させるという原則にたつて、つねに行動の統一を守らねばならない。

日本プロレタリアートは、その数十年にわたる闘争の中で、ついにただ一度も正確な指導と戦術をみずからのものとすることができなかつた。スターリン主義のドグマは日本プロレタリアートの貴重な闘争を、つねに重大な損失におきかえてきたのである。もはや、だんじてわれわれはこうした現状に甘んじていることはできない。共産主義者同盟を、あたらしい真の前衛党として全国のすべての工場に組織することこそ、日本プロレタリアートを勝利にみちびくただ一つの保証なのだ。

全日本のプロレタリア同志諸君！

今こそ、公認指導部の日和見主義を打倒し、世界プロレタリア社会主義革命の目標をはつきりとみつめ、新たな前衛の結集と、正しい指導の確立のため全力をあげて闘おう。

今こそ、共産主義者同盟の旗の下、新たな真のプロレタリア前衛組織に結集せよ。

万国の労働者団結せよ！

新たなインターナショナルを結成せよ！

帝国主義を打倒せよ！

プロレタリア世界革命万才！

革命的マルクス主義の旗の下、共産主義者同盟に結集せよ！

一九五九年八月　東京

共産主義者同盟第三回全国大会

東京都新宿区若松町一〇十番地
青年社
TEL(三五一)[illegible]
振替東京[illegible]